



## 多可町加美区箸荷の概要

(令和6年1月現在)

- 世帯数 69戸
- 人口 191人
- 高齢化率 43.5%  
(65歳以上が83人)
- 水稲面積 13.1 ha
- 水稲作付農家数 24戸



多可町加美区北部は杉原谷と呼ばれ、兵庫県重要無形文化財に認定された和紙「杉原紙」の発祥の地です。杉原紙は、鎌倉幕府の公用紙として用いられていました。

# いきいき箸荷の概要

- 協定農用地 22.8ha
  - うち田 22.0ha
  - うち畑 0.8ha

- 農業用施設
  - 開水路 13.8km
  - 農道 5.0km



- 構成員数 58人（うち農業者48人）

## 組織構成



# 農地維持活動・資源向上活動(共同活動)

点検・機能診断



水路の草刈り



遊休農地発生防止



鳥獣害防護柵の保守管理



5

## 農村環境保全活動 ～植栽等の景観形成活動～ (景観形成・生活環境保全)

- ▶ 景観形成による地域づくりとして農道などの村内に花苗を植栽



6

## 多面的機能の増進を図る活動

～農村文化の伝承を通じた農村コミュニティの強化～

- ▶ 毎年2月11日に五穀豊穰などを願う**百々手（ももて）祭り**を開催



玉串奉納、神事が終わると宮司や当人達が手製の弓と矢で約15m先の的を射る。的の中央には鬼と書かれ、その上を墨で塗りつぶし、四方の悪魔を弓矢で追い払う。矢を家に飾っておけば福が授かると集落の人たちは競うように矢を取り合い、持ち帰る。

7

## 多面的機能の増進を図る活動

～農村文化の伝承を通じた農村コミュニティの強化～

- ▶ **村芝居** 昭和40年代に途絶えてしまった村芝居を復活させようと平成5年現役消防団による劇団「箸消興行」を結成。平成14年には「第1回全国むら芝居サミット」を開催した。（コロナ以降は休止中）



8

## 資源向上活動（長寿命化）

### ➡ 水路の補修（写真）



9

## 環境創造型農業の推進 （箸荷営農組合）

### ➡ 土づくり

地元牧場産の堆肥で団粒構造の肥沃な農地に改良

### ➡ 化学成分低減

環境対策として化学肥料と化学農薬の5割低減を実現



10

# 箸荷のむらづくり活動

## ▶ 箸荷景観むらづくり協定

兵庫県が認定する住民協定制度の第1号

平成12年12月1日締結  
平成13年2月9日認定  
平成22年12月1日改訂

有効期間 平成22年12月1日  
から50年間

協定書には目的、有効期間、むらの景観像、その他景観むらづくりのルール等を定める。



### はたがい 箸荷景観むらづくりのルール



# 箸荷のむらづくり活動

## ➡ 集落新聞

「箸荷だいすき」



年4回発行（3・6・9・12月）

## ➡ 村落史

「加美町箸荷村落史」



平成7年10月1日発行

## 箸荷バイオガス発電所構想

- ・ 兵庫県内初の民間企業によるバイオガス発電施設整備計画が進捗中
- ・ 耕畜連携により近くにある県内最大の乳牛を飼育する株式会社箸荷牧場の家畜糞尿のみを利用し、発酵させたメタンガスで発電を想定
- ・ 予想発電量は年間で一般家庭約200世帯分とされ、二酸化炭素排出削減に大きく寄与する予定
- ・ 副産物として出る液状の堆肥は、有機肥料として地元農家に配られ資源の地域内循環を目指す。



## 将来の展望

- 今までの永い歩みの中で形成された美しい農村風景を次世代に残していくため、今後も箸荷景観むらづくり協定を守り、景観に配慮したむらづくりを進めていきます。
- 人・農地プランの実質化を完了し、持続的な営農ビジョンを共有しています。農地中間管理事業により農地集積化に取り組み、地域農業を支え合う持続可能な共同体制を確立します。



15

ご清聴ありがとうございました  
いきいき箸荷

箸荷むらづくり館

16